

イラク激戦の街 新生児の異常増

イラク戦争で米軍の掃討作戦が展開された中部ファールージャにある地元総合病院で、この3年半に少なくとも1158人の子どもに先天異常が確認された。このうち11カ月間の新生児を対象とした調査では先天異常の発生率が14・4%だった。原因は未解明だが、米軍兵器の影響も指摘されている。イラク保健省は実態調査を始めている。



両手足の指が6本ずつあるザハラ・マジドちゃん(7)と父。視力が弱く、歩いたり話したりすることもできない。3月6日、ファールージャの病院。村山祐介撮影



ファールージャと米軍の掃討作戦
バグダッドの西約60キロの都市で人口約25万人。旧フセイン政権の中枢を担ったイスラム教スンニ派の街で、アルカイダ系テロ組織など反米勢力の拠点となった。開戦翌年の2004年

3月、米民間人4人が殺害される事件が発生。住民が遺体を車で引きずって2体を鉄橋につるす映像が流れ、世界に衝撃を与えた。米軍は直後の4月と11月、市街地を封鎖して大規模な掃討作戦を展開し、多数の市民が犠牲になった。

米軍兵器の影響指摘も

イラク戦争後、先天異常の増加が住民の間で不安を広げていた。地域最大の国立ファールージャ総合病院は2009年10月以降、サミラ・アラニー小児科医(48)は3月からファールージャ母子病院勤務IIを中心に出生状況の把握に乗り出し、これまでに1158人の子どもに先天異常が確認された。

また、アラニー医師と英がん先天異常財団のマラク・ハムダン科学部長ら専門家3人の共同調査で、09年11月から11カ月間に診察した新生児2016人のうち291人に先天異常があり、発生率は14・4%だった。症状別では心臓循環器系の異常が113件、神経系72件、消化器系40件、ダウン症30件などだった。

日本では横浜市大先天異常モニタリングセンターの10年度全国調査で、先天異常の発生率は2・31%だった。平原史樹センター長は、14・4%は「非常に高い」とする一方、ファールージャ総合病院の出産傾向が地域全体を適切に反映しているかや、生活環境や近親

婚の状況などの検証が必要だと指摘した。米ミシガン大の環境毒素学者ら専門家が10年にファールージャの56家族を対象に調査したところ、

に毛髪を調べたところ、先天異常の子どもの健康児に比べて有害金属の鉛が5倍、水銀は6倍の含有量だったとし、「爆撃が金属汚染を悪化させ、先天異常の多発を招いている可能性が示唆される」としている。アラニー氏とハムダン氏の別の調査では、先天異常のある子の両親25組の毛髪を分析した結果、低濃縮のウランが検出された。「ウランを使った兵器や知られていない新型兵器」に起因する可能性を指摘している。劣化ウラン弾の影響だとする研究者もいる。

頭が二つある子、顔の真ん中に一つだけ目がある子、脳がなかったり破裂したりしている子。画面に、様々な写真が映し出された。先天異常を記録し続けているアラニー医師の台帳の記録は1日1人のペースで増え続ける。DNAや超音波検査機器がそろっていたら、「1日にさらに2、3人は見つかるはず」。

また、アラニー医師と英がん先天異常財団のマラク・ハムダン科学部長ら専門家3人の共同調査で、09年11月から11カ月間に診察した新生児2016人のうち291人に先天異常があり、発生率は14・4%だった。症状別では心臓循環器系の異常が113件、神経系72件、消化器系40件、ダウン症30件などだった。

日本では横浜市大先天異常モニタリングセンターの10年度全国調査で、先天異常の発生率は2・31%だった。平原史樹センター長は、14・4%は「非常に高い」とする一方、ファールージャ総合病院の出産傾向が地域全体を適切に反映しているかや、生活環境や近親

開戦10年やっと調査
イラク保健省は昨年6月から先天異常やがんの状況について、家族状況や症状を聞き取る調査を世界保健機関(WHO)の承認を得る形で進めている。5月にも結果を公表するという。同省のハッサン・アルカザズ公衆衛生局長は、社会

問題化したことが調査開始の発端としつつ、開戦から10年の今が「調査に最適な時期だ」と説明した。調査はこれまで「壁」に突き当たってきた。科学技術省の核化学専門家ムンジット・アルナエブさん(58)は1年前、ファールージャの調査を省内で提案した際、「国民の不安を深めたくない」と反対され

「この子が何をしたというのか」

3月にファールージャの病院を訪ねた。酸素吸入器のシューという作動音が響く病床で「あーん」「うーん」と、小さな声が聞こえた。両目だけを動かすメイサム・ミラド君(生後6カ月)の手を祖母(46)が握りしめていた。生後3日目に先天性心臓欠陥が見つかった。体重は現在も約3・3kg。アンミル・ハムド医師(24)は「容体が悪す

1日1人膨らむ記録

ぎて手術は難しい」。祖母は「胸が張り裂けそうです。私には神に救いを祈ることしかできない」と話した。1歳1カ月のイスハック・イブラヒム君の右上腹部は3センチの肉片が出ていた。出生時に体外に出ていた腸の一部を切り取った痕だ。「この子はまだ歯も生えてこない」と母のニスリーン・ハリールさん(30)は訴えた。

頭が二つある子、顔の真ん中に一つだけ目がある子、脳がなかったり破裂したりしている子。画面に、様々な写真が映し出された。先天異常を記録し続けているアラニー医師の台帳の記録は1日1人のペースで増え続ける。DNAや超音波検査機器がそろっていたら、「1日にさらに2、3人は見つかるはず」。

また、アラニー医師と英がん先天異常財団のマラク・ハムダン科学部長ら専門家3人の共同調査で、09年11月から11カ月間に診察した新生児2016人のうち291人に先天異常があり、発生率は14・4%だった。症状別では心臓循環器系の異常が113件、神経系72件、消化器系40件、ダウン症30件などだった。

日本では横浜市大先天異常モニタリングセンターの10年度全国調査で、先天異常の発生率は2・31%だった。平原史樹センター長は、14・4%は「非常に高い」とする一方、ファールージャ総合病院の出産傾向が地域全体を適切に反映しているかや、生活環境や近親

原因や実態が解明できない中、疑心暗鬼も広がる。「ファールージャの青年たち、妻を市外に求める」地元紙は2月28日付一面トップでそう報じた。病院職員は「この子は、地元の女性との結婚は怖い」と打ち明けた。

たった500円で、タブレットのなかに新聞紙が!!

朝日新聞 DIGITAL

朝日新聞デジタル お問い合わせ専用ダイヤル 0120-383-636

今なら、朝日新聞ご購入の方だけに特別プライス! お申込みの条件はこちら かわろう 検索